「いつか海外に住みたい」を手の届く現実にするための本

伊田 武蔵 IDA MUSASHI

気がつけば海外生活歴10年以上、
海外4カ国に住んでわかった
海外移住力の身につけ方

数ヶ月〜
数年の滞在？
永住？

目次

●はじめに

●人生初にして下見なしでマレーシアへ移住した夜

●移住して得られた豪邸（？）生活

●移住先の下見を無駄に終わらせないために

●台湾で、バンコクで初体験

●海外移住に伴う役所での手続き

●最初の移住先にマレーシアを選んだ理由

●日本でいいと思っていた

●永住を前提としない海外移住

●移住前にこれは決めておかないと

●移住先の候補を見つける方法

●移住したい国に住めるかどうか？ビザの現実

●移住後の仕事について

●移住後の食事の注意点

●マレーシアでMM2Hビザを取得した時の話

●海外ATMの恐怖!?引き出した現金が・・・

●タイは海外移住において過去の国なのか？

●シンガポール移住は富裕層の特権?

●移住先としてマレーシアはどうなのか？

●誤解されがちなフィリピンを移住先として見ると

●フィリピンに実際に住んでみて

●移住先に拒まれるのは当たり前

●移住先でいざという時の病院を確保する

●信頼できるサポート会社

●あとがき

はじめに

2011年２月、マレーシアへ移住したのが
私の海外生活のはじまりだった。

この時は下見なしでの渡航で、
そのまま２年をマレーシアで過ごした。

移住に限らず、
海外を活用して人生の自由度を上げたいと思い、
そのための活動を本格的に始めたのもこの時期。

具体的には、
海外に資産を分散したり、
各国の銀行に口座を開設したり、
年金代わりの積立投資を始めたり。

現在では８カ国に資産を分散している。

海外に住む友人・知人が増えたのも、
この時期から。

当初はビザなしでマレーシアに移住したが、
途中でMM2H（リタイアメントビザ）を申請。

無事に取得できたものの、

2年間の生活を終え、
マレーシアを去る一週間前だった（笑）。

その後、再び下見なしで
フィリピンのマニラ（マカティ）へ移住。

プールやジムはもちろん、
ビリヤード台や卓球台、ダーツもあるコンドミニアムで
1年間を過ごした。

フィリピンでは永住権のクオータビザを取得。

当初はリタイアメントビザのSRRVを取る予定だったが、
詳しく調べていくうちに予定を変更した。

そして、調べるほどに
フィリピンにはあやしいビザ業者が多く（苦笑）、
おかげで調査に半年ほど費やした。

時間はかかったが、
おかげで無事に永住権を取得できた。

こうしてマレーシアとフィリピンにビザを持ち、
一方で当面どこかの国に永住する意思はない。

では、なぜビザを取ったかと言えば、
将来への備えのため。

日本以外に確実に住める国を確保しておきたかった。

背景には、3.11 の際に流れてきた情報もある。

放射能汚染の可能性が海外でも流れ、
マレーシア人に日本の状況を聞かれることもあった。

一方、もし放射能汚染が深刻なら、
日本のパスポートの信用力が失墜し、
ビザなしで入国できる国が減る可能性も示唆されていた。

日本のパスポートは世界屈指の信用力だが、
それは将来に向けて保証される効力ではない。

地震大国である日本で
再び原発事故が起きたとしたら・・・。

あるいは東京に大地震が起きて
経済が大幅に悪化したら・・・。

その他にもいくつかのカントリーリスクが想定されるが、
こうしたリスクを回避するために
他の国に住める権利を確保しておくことにした。

そして、マニラの次の選択肢として出てきたのは、
国をまたいでのホテル暮らし。

色々な国を移動しながら、
自宅を持たずに暮らすことだった。

今後住みたい街をいくつも訪れ、
基本的にビザなしで滞在できる期間を
フルに活用して現地で暮らすように旅をした。

それぞれの街で暮らす人と会って
現地事情を聞いたりしながら、
それぞれの国・街について
理解を深められた時期だった。

世界一周も途中ではさみながら
ホテル暮らしが１年半続き、その後はセブへ。

セブ生活終了後に再び１年３ヶ月のホテル暮らしが始まり、
そこから台湾へ移住して１年過ごした。

台湾で住んだコンドミニアムは
プール・ジムに加えて
露天風呂やサウナも付いていた。

まさか海外で露天風呂に日常的に入れるとは。

嬉しい誤算だった。

台湾の後はタイ・バンコクへ移住して、今に至る。

タイにおいては
一時期は取得できそうなビザがなかったものの、
タイランドエリートが復活したことで状況が変わり、
５年のビザを得られる
タイランドエリート・イージーアクセスを取得。

現在は海外４カ国目となる生活を楽しんでいる。

これまでこだわってきたのは、
常識という名の先入観ではなく、
客観的な事実の積み上げを判断基準にすること。

仕事の都合でもないのに
わざわざ海外に移住するのは、
いまいち常識的には理解しづらい。

日本円の資産をほとんど持たないことも、
将来のためにビザを確保することも同じ。

しかし、冷静に現実を分析していけば、
日本人が海外に住んではいけない理由はないし、
資産を一つの国に置くのはリスクが大きすぎる。

全資産をタイのバーツに
両替することを提案する人がいたら、
きっとあなたも拒むはず。

それが日本円なら大丈夫というのが
世間一般の常識であり、先入観。

しかし、先入観は事実ではない。

絶対的に安全な通貨など存在しない。

ということで、各国に資産を分散した。

常識にしたがって根拠のない安心感を得るよりも
事実を積み上げて自分で選択をした結果、
多少風変わりな人生を歩むことになった。

この数年は年を越す国もたいてい違う。

去年はタイ・バンコクで、
一昨年は台湾・台中で、
3年前はベトナムのホイアンで、
4年前はフィリピンのセブで年を越した。

年を取ると1年が短く感じるというが、
環境の変化が多いためか、
私の体感では1年がむしろ長くなっているようにすら感じる。

今後も海外生活は続くが、
まずは原点に立ち戻って
初めての海外生活の舞台となった
マレーシアの話から。

人生初にして下見なしでマレーシアへ移住した夜

2011年２月。

埼玉にしては珍しく雪が軽く積もっていた。

準備はこれで足りているのか？

他に持っていくものはないのか？

そんな疑問を持ちながらも、
そもそも海外移住に必要な荷物なんて
自分でもよく分からない。

仕事は世界のどこにいてもできる。

そうは言っても、
初めての海外生活が近づくにつれ
不安がなかったわけじゃない。

前日から軽く胃が痛んでいた。

不安と期待を胸に、羽田空港に向かった。

深夜12時を回ろうというタイミングで、
飛行機は出発した。

未知の地、マレーシアに向けて。

クアラルンプールに到着したのは朝。

それから丸1日街を見て周ったが、
2月の日本の気温とは20度ほど差がある上、
ショッピングモールは必要以上に冷え冷えしている。

そんな温度変化にやられて
途中で気分が悪くなった時間帯もあったが、
しばらく休んだら無事回復した。

日が暮れてからは、
移住先の地方都市に夜行列車での移動。

なぜか夜の移動ばかりになってしまった。

実は、私は移住前の下見をしなかった。

行けば分かるだろうと思っていたし、
最悪の場合には住むのをやめて帰ってくればいい。

ということで、マレーシアはもちろん、
東南アジアも初めてだった。

真冬の日本から、赤道に近いクアラルンプールへ。

着てきたダウンジャケットはカバンに詰め、
初めての東南アジアをＴシャツごしに肌で感じた。

この街には異常な活気がある。

歩行者とぶつかる寸前までスピードをゆるめない車、
そこを迷わず渡る現地の人を見て、
クアラルンプールの交通事情に驚いた。

なぜ事故にならないのか不思議だ。

ペナンラスクというマレーシアの麺料理を食べたり、
モスクを見たり、
大型ショッピングモールを見たりしているうちに、
あっという間に１日が終わった。

クアラルンプールの想像以上の発展ぶり、

そして熱気に気圧されながらも、
この国に住むことにワクワクしている自分がいた。

いつの間にか、出発前の不安は消えている。

夜行列車に乗る前には、
同じ方向のマラッカへ行く70歳ぐらいの老紳士と
しばし話をして列車を待った。

和やかに進んだ会話だったが、
８割以上何を言ってるのか分からなかった（笑）

再び日付が変わる直前に電車は動き出し、
翌朝６時過ぎに到着した。

マレーシアでは電車が止まる時にアナウンスはない。

自分で駅の表示を確認しなくてはならないが、
この表示も分かりづらい。

そして、どうも予定時刻になっても駅に着かない。

ひょっとして、予定より早く到着していて、
その先のシンガポールに行ってしまうのでは？

寝過ごしたか？

そんな不安を感じていたが、

単純に遅れていただけだった。

駅を降り、これから住む街と初めての対面。

思ったよりも駅は立派だ。

日本の新幹線の駅と比べても負けていない。

荷物を置くため、
予約していたホテルに向かう。

そこで移住早々、衝撃の事実が。

ホテルの予約の日付けが間違っている・・・。

なぜか飛行機の出発日で予約していた。

交渉したが、当然日付変更は不可。

しかも満室というので、
他のホテルに飛び込みで部屋を取った。

到着直後にトラブルに遭遇しつつも、
（自分で引き起こしただけだが）

事前に連絡を取っていた不動産業者と
その日の午前中に合流し、
２時間ほどコンドミニアムを見て周った。

どのコンドミニアムにもプールがあるし、
建物もきれいで問題を感じない。

東京なら家賃が４、５倍はするだろう。

プールや家具・家電付きであることを考えると、
それ以上かもしれない。

その内の１つのコンドミニアムに決め、
昼には契約を行い、
５日後に入居することになった。

それまではしばしホテルに滞在。

移住に際して行ったことは、実は少ない。

日本では、市役所で住民票を抜き、
住民税の手続きを済ませ、
健康保険証を返す。

他には税務署での手続きがあったぐらい。

市役所は１時間ちょっと、
税務署は30分ほどで終わった。

マレーシアでは、部屋を探しただけ。

こうしてあっけなく海外生活は始まった。

移住仲間の助けがあったために
不動産業者を探したりしなくて済んだからではあるが。

事前の不安とは裏腹に、
拍子抜けするほどにあっさりとしたスタートだった。

移住して得られた豪邸（？）生活

南国、常夏のプールサイド。

そんなところでのんびりできるのは、
富裕層だけに許された特権だと思っていた。

私の使っているプールは
コンドミニアムのプールなので、

一戸建てのように私だけの所有物ではない。

しかし、実際にプールに入るときは
１人であることが多い。

プールに人がいてもせいぜい片手で数えられる人数。

混み合っていることはない。

事実、先ほど泳いできた時も
泳いでいたのは私だけだったし、
プールサイドにいたのも私の他に１組の親子だけだった。

こんな生活をするために
収入がいくらになればいいのだろう？

答えを言うと、一人暮らしなら月収10万円で可能。

家族で暮らすなら、１人あたりの費用はもっと下がる。

０を１つ忘れているわけではない。

月収10万円で、こんな暮らしができる。

家賃だけではなく、生活費トータルで。

プール付きのコンドミニアムでも、

マレーシアの地方都市では月に３万円台から借りられる。

探せば２万円台でも見つかるだろう。

高級物件でも、街によっては２ LDK で８万円程度。

私は自炊しないので、毎食外食。

最近はローカルフードはあまり食べないが、
こちらでは高級気味な日本食やイタリアンでも
１食 500 円から 1000 円程度。

月に食費が５万円もあれば十分。

ローカルレストランなら 100 円から 200 円で
食べることができるので、
これなら月に２万円以内に食費を抑えることもできる。

人件費が安いので、
タクシー代は初乗り 80 円から。

まさに電車感覚で乗れる。

美容院で髪をカットしてもらい、
マッサージ付きのシャンプーをしてもらって 1000 円程度。

節約気味に暮らせば月に10万円。

私は切り詰めることはしていないが、
それでも20万円もあれば暮らせる。

プール付きのコンドミニアムに住み、
年中泳げる常夏の国に住むのに
多くのお金は要らないことが移住してみて分かった。

もちろん、旅行に行ったりすれば、
別途お金はかかる。

それでも、東南アジアはホテル代も安いし、
飛行機もLCC（格安航空会社）が発達しているので
とても安い。

たとえば、シンガポールからバンコクまで往復するのに、
燃油サーチャージや税込で
１万円以内ということもあった。

片道ではなく、往復で。

東京から大阪に新幹線で行くよりも安い。

一人暮らしなのでメイドは雇っていないが、
家族で暮らしている友人によると、
月に２万円程度で

洗濯や掃除、買い物、料理をしてくれるらしい。

人件費の安いフィリピンであれば、
プール付きのコンドミニアムに住み、
メイドさんを雇っても月15万円で暮らせてしまう。

マニラなら大都会なので利便性は申し分ないし、
セブ島ならビーチリゾートに住むことができる。

そこで余裕のある暮らしをしても、15万円。

節約すれば、もちろんコストはもっと下げられる。

生活の場を海外に移すだけで、
こんな暮らしが待っている。

しかも、日本人が住むのは外国人向けのコンドミニアムなので、
現地でもレベルの高い物件。

新興国であっても、クオリティはそれなりに高い。

実際に行ってみると分かるが、
新興国は発展している部分とそうではない部分の差が大きい。

移住しても現地の人として暮らすわけではないので、

実は生活レベルが日本より落ちるわけでもない。

むしろ、月の支出が40万円程度までであれば、
日本に住むよりもアジアで暮らすほうが
コストを下げながら生活レベルは上げられる。

暮らしていくほどに、
海外生活には大きな魅力があることを実感することになった。

移住先の下見を無駄に終わらせないために

移住先候補地へ下見に行く目的は何だろう？

ただ単に旅行気分を味わうこと？

移住前にベストを尽くしたというアピールを
自分や誰かに対してすることだろうか？

そうではない。

移住後の生活を、リアリティを持って
イメージできるようになること。

それが本来の下見の目的。

夢やあこがれを現実に落とし込むプロセスに他ならない。

移住後は地に足をつけた生活をするわけで、
観光客とは日々の動きが違う。

地方から東京に引っ越しても
毎日スカイツリーを見に行くことなどないように、
移住先の観光地を日々訪れるわけではない。

もっと生活に根ざした場所を見ておく必要がある。

たとえば、あなたは一日のどれだけの時間を
自宅で過ごすだろう？

家には寝に帰るだけかもしれないし、
子供を育てながら一日の大半を自宅で過ごすかもしれない。

どちらにしても、
一日に 10 時間ぐらいは家で過ごすのではないだろうか。

そして、外に出かける時にも
自宅をスタート地点にして移動することになる。

となると、外国人が多く住むエリアの家を見たり、

その周辺環境を見ておくことこそ
下見をする時に本当に必要なこと。

この点、ホテルに宿泊すると厳しいものがある。

ホテルと自宅用の物件は作りが違うし、
多くの街でホテルが密集しているのは
観光やショッピングに便利なエリア。

外国人居住エリアとは一致しないことが多い。

そうなると、移住後に住む部屋のイメージができず、
見て周るエリアもずれてしまう。

これでは下見としての効果が
半減してしまうのも仕方ないだろう。

不動産事情は国によって異なり、
家賃に対する面積のような
数字だけでも捉えやすいものから、
内装のセンスや防音、住民の雰囲気といった
実際に行かないと分かりづらいものまである。

同じぐらいの広さの家でも
バスルームが２つ以上付いている国もあるし、

ゴミ出しの事情も違ってくる。

ネット回線のスピードも、周りの住民のマナーも。

あるいは住む上でトイレ事情が大丈夫かどうかも。

たとえば、マレーシアはトイレットペーパーを使わず、
水で洗い流す文化がある。

そのため、街中のトイレはビショビショで汚い。

では、自宅用のトイレは？

そんな疑問は事前に解消しておきたいところ。

また、国によっては玄関のドアの下に、
換気用にかなり大きな隙間を空けてあることがある。

そこから封筒のような郵便物を
入れたりできるぐらいの隙間なので、
当然防音性は低い。

そうした事情を事前に察知するためにも、
現地の住宅に泊まるのは有効。

移住後のリアルを体験するには、
現地で自宅用のコンドミニアム等に泊まってみるのが
一番の近道となる。

リアルな居住環境をチェックしておけば、
移住後に後悔するリスクを減らせる。

住宅地に宿泊すれば、
居住環境としての街の姿も見えてくる。

道は歩きやすいのか？

安全そうな雰囲気なのか？

買い物や食事に不便はないか？

様々な観点から移住後の生活をイメージできる。

また、他の住人のマナーについても、
国や物件のグレードで大きく違ってくる。

私がマレーシアで住んでいた時には、
２つのコンドミニアムに住んだ。

距離は車で５分ほど。

しかし、１年目と２年目では住人の質は大きく違った。

単純に価格帯の影響が大きかったのだろうが、

１年目は陸の孤島のような立地で不便だったため、
２年目は立地重視で引っ越した。

そのエリアにはコンドミニアムの選択肢がなく、
家賃がだいぶ下がったコンドミニアムに住んだが、

・喫煙禁止の廊下で日常的に平気で喫煙している

・禁煙エリアにタバコの吸殻が散乱しているため、
　管理室も気づいているはずだが対応はしない

・インド系の住人が日常的に爆音で音楽を鳴らしている

・上半身裸でコンドミニアム内を歩き回る住人がいる

といった問題があった。

近隣住民の事情を知るためにも、
現地のコンドミニアム等に泊まってみるのは
良い経験になる。

とは言え、現地に知り合いを作り、
家に泊めてもらうのはハードルが高い。

これを実践できる人の方が少数派だろう。

しかし、そんな無理難題を乗り越える必要はない。

民泊として知られるairbnbなら
現地の人の自宅に一泊から泊まれる。

住人と同居というのは抵抗があるかもしれないが、
貸し切りタイプの物件なら
あなたが独占的にその部屋を使える。

たとえばコンドミニアムの場合、
貸し切りタイプの部屋ならリビング等も含めて
他には誰も利用者はいない。

所有者も入って来ない。

airbnbは自宅の空き部屋を使っている人もいるが、
投資用物件を出している人も多く、
貸し切りタイプの物件はこれに該当する。

オーナーが住んでいるわけではないので、
ホテルに近い感覚で利用可能。

これなら、コンドミニアムを1年契約の長期で
不動産業者の仲介のもとで借りるか、
airbnbを通して短期で（一泊から）借りるかの違いだけ。

プライバシーも保たれるし、
現地の暮らしをリアルに体験することができる。

これほど効果的な下見はない。

海外の多くの物件は家具や家電が備え付けだが、
airbnb の場合も同様。

そのため、リアルな生活を体験できる。

いきなり海外で airbnb を利用するのが緊張するなら、
日本で旅行や出張の際に使っておく手もある。

一連の流れを体験すれば、
ホテルにチェックインすることと
大差ないことを理解できるだろう。

ホテルよりも安く宿泊できるというメリットもある。

旅行気分で移住先の候補地へ行って、
大した収穫もなく帰ってくるのか？

現地での暮らしをリアルに体験して来るのか？

移住前の下見において、その違いは大きい。

せっかくなら、現地のコンドミニアム等の物件に泊まって、
移住後の暮らしをイメージしてみてはどうだろう。

私自身、普段はホテルにも泊まるが、
今後住むことを考えている街では
airbnb を利用して各国の暮らしを垣間見て楽しんでいる。

台湾で、バンコクで初体験

前回は、移住先の下見をする際には
ホテルよりも現地のコンドミニアム等の住宅に
実際に泊まってみると、

・現地の住宅事情

・住宅地の周辺環境

・住人のマナー

等を知るために有効という話をした。

そして、現地の住宅に泊まるには
airbnb を使えば一泊から、
ホテルよりも安くで泊まれると。

とは言え、airbnb を使ったことがない場合、
いまいちイメージしづらいと思う。

そこで、私が初めて台北で airbnb を使った時のこと、

そして、以前この件についてメールで連絡をくれた人がいて、
こちらの方は airbnb 初体験がタイ・バンコクだったということで
そのメールも掲載しておくのでご参考に。

まずは私の体験から。

台北を訪れたのは、
今後住む可能性がある場所だと考えたから。

台湾は一度の入国につき、
ビザなしで 90 日まで滞在できる上、
期限内に出入国をすることで 1 年程度なら問題なく住める。

その方法で住むことを検討していたため、
現地をただ旅行者として見るだけではなく、
airbnb を利用してみることにした。

部屋の分類は
「まるまる貸し切り」「個室」「シェアルーム」の 3 種類があった。

最初は貸し切りと個室の違いがよくわからなかったが、
調べていくうちに理解できた。

３ベッドルームのコンドミニアムを考えると分かりやすい。

３ベッドルームは日本で言うところの３ LDK。

３つの寝室が付いている部屋。

個室の場合、この３つの寝室のうちの１つが割り当てられる。

ということは、リビングやバスルームは共用。

シェアハウスの感覚に近い。

対して貸し切りの場合、
この３ベッドルームの部屋を丸ごと借りるため、
部屋の鍵を持っているのは自分だけ。

普通に１年契約で部屋を借りるのと同様に、
リビング等も含めて他人が入ってくることはない。

ということで、
より安心感のある貸し切りにチェックマークを入れ、
条件に該当する部屋を探すことにした。

他にも金額やエリアで絞り込むことができ、
このあたりはHotels.comやエクスペディア等の
ホテル予約サイトと同じような使い勝手で物件を探せる。

台湾は北京語がベースになっているが、
私は北京語がまったく分からない。

そのため、北京語ではなく
英語で説明が表記されている物件だけ目を通した。

すでに宿泊した人からの評価も掲載されているので、
平均値の高い部屋なら外れは少ないはず。

これはこの数年で
数多くのホテルを泊まり歩いた経験からの推測だったが、
やはりairbnbでも評価の平均値は参考になる。

こうして物件を絞れたら、
あとは予約をして、クレジットカードで決済するだけ。

ホテルの予約と同じ感覚で終了した。

その後、ホスト（部屋の貸し手）から連絡が来て、
物件の住所が送られてきた。

台北は地下鉄網が張り巡らされており、
駅からは徒歩９分ということ。

地図で見る限り、道は分かりやすそうだった。

当日、時間を２時に決めてロビーで待ち合わせをしたが、
案の定迷わずにたどりつけた。

スーツケースを引きながらロビーに入ると、
建物の管理人と思われるおばさんがこちらを見ている。

部屋の貸し手らしい人もいないし、
黙ってソファーに座るのも何だったので、
一応建物が合っているか聞いてみることにした。

不審者ではないというアピールも兼ねて。

おばさんはうなずいた後に建物の入り口へ向かい、
誰かと話していた。

すると、どこか見覚えのある顔がやって来た。

見覚えがあったのは、
airbnb のサイトで貸し手の写真を見ていたからだった。

「Eh〜,Mr.Musashi?」

そんな言葉を皮切りに
お互いに間違いないことを確認し、
早速部屋に案内された。

さすがに家賃が高騰している台北だけあって
広々としているとは言い難いものの、
一般のホテルに比べれば明らかに広い。

清潔感もあって、何も問題はなかった。

マレーシアで２年目に住んだコンドミニアムに入居した時より、
明らかにきれい。

チェックアウトの時間を確認すると、
午後４時までなら大丈夫とのこと。

この部分の条件は物件によるし、
ここまで遅くていいのは例外的。
（チェックアウトの時間は予約前に確認できる）

とても助かった。

ドアはオートロックになっているため、
チェックアウトの時には鍵をデスクの上に置いたまま
ドアを閉めて出るだけでいいとのこと。

シンプルな仕組みだった。

事前に電話番号は聞いていたが、
何か問題が起きたら電話するか、
airbnb のシステムでメッセージを送ってくれれば

対応するという言葉とともに、
部屋のオーナーは去っていった。

３泊してみたが、
やはり不動産の内見のように一瞬見るだけではないので、
現地での生活をイメージできる。

朝・昼・晩の食事を外で済ませるため、
そのエリアにどのくらい店があるかも自然に見て周る。

台湾の場合、
営業が朝だけ、昼だけ、夜だけ、という店もある。

もちろん昼と夜の両方やっている店もあるが、
昼か夜だけという店が意外に多い。

私には通勤というものがないので、
昼食も自宅の近くで食べることが多い。

そうなった時に、
夜に比べて開いている店が少ない中、
生活に困らないかを確認することもできた。

24時間フロントが常駐するホテルに比べると、
少々心細い部分もあった。

しかし、考えてみると

実際に台湾に住むなら同じ環境になる。

台北のホテルには
日本語ができるスタッフが基本的にいるが、
現地で暮らすならそうはいかない。

移住を考えるのなら、
airbnb のハードルが高いと言っている場合でもないだろう。

実際、マレーシアで暮らしていた頃を考えれば、
コンドミニアムを 1 年で借りるのと
airbnb で 3 泊したのとで大きな違いはなかった。

違いと言えば、
airbnb なら入居の際に書類のやり取り等の
面倒な手続きがなかったことぐらい。

思った以上に airbnb はシステムとして
すでに整備されていた。

ここまでが私の airbnb 初体験の時の話だが、
続いては S さんからのメール。

S さんはバンコクで airbnb を初めて使ったということ。

他の方の参考になるメールをいただけたことに感謝しつつ、

こちらも紹介しておく。

なお、文中に出てくるエアビーというのはairbnbの略称。

「ところで、３ヶ月ほど前にバンコクのプロンポーンとトンローで
エアビーを初めて使ってきました。

タイには何度か訪れてて、
来年には住むことを考えてます。

向こうで働いてる日本人とも何度か飲むことができました。

アソークの日本式の居酒屋に連れて行ってもらいましたが
下手なチェーンで日本で飲むよりも
味も店員さんのキビキビ具合もよかった気がします。

日本人が多いエリアのコンドを経験してみたくて、
３つの物件に泊まってみました。

どれも２泊ずつだったのですが、
価格帯の違いでどのくらいの差が出るのだか
おぼろげにつかめてきた気がします。

私はエアビー初体験がバンコクでしたが、
たしかに日本で試しておいてもいいかもしれませんね。

なんて言いつつも、

タイ語は話せなくても無事に泊まれたので、
結果オーライでした。

タイ以外の国でもオーケーかどうかは、
ちょっとなんとも、というところですが。」

ただ単にホテルより宿泊費が安いだけではなく、
現地での暮らしを体験できる。

この点でairbnbは移住前の下見に強い。

単なる観光旅行ではなく、
実のある下見をするために
あなたにも上手に活用していただきたい。

海外移住に伴う役所での手続き

移住前に日本で行うべき手続きについて。

これは至ってシンプル。

市役所に行って海外移住する旨を伝えると、
住民票を抜くための手続きをしてくれる。

この際、移転先の記載は国名のみでいいので、
正確な住所は決まっていなくていい。

そのため、現地に渡ってから住むところを探す場合にも、
まったく問題ないことになる。

この時に健康保険の停止の手続きをし、
健康保険証を返還した。

返還後は治療を受けても全額負担になるため、
持病があるなら薬を多めにもらっておくとか、
歯科検診を受けて歯の状態をベストにしておくとか、
そうしたことをしておいた方がいい。

海外だと医療の面で最初は不安もあると思うので、
まずは日本でやれることをしておくと
安心して移住できる。

一時帰国の際に治療を受けるにも
健康保険が使えないので、
その意味でも先に治療や予防はしておいた方がいい。

住民票を抜いたら、
住民税の手続きをするために別の窓口へ行くように言われた。

住民税は１月１日に日本に住民票がある限り、

年の途中で移住してもその年の分は支払うことになる。

私の場合、
２月の移住なので住民税は
かなり損することになってしまった・・・。

以上が市役所での手続き。

少ない人は、これだけで手続きは終了。

日本国内での引越しと手間は変わらない。

移住理由を聞かれることもなく、
引き止められる事もなく、
１時間ほどで手続きが終わった。

この他に、個人事業主なら
廃業届・青色申告の届けの取り下げ等を
税務署で行うことになるが、
これは実際に行けばその場で教えてもらえる。

また、子供がいれば学校の手続きとか、

自分で持っていけない荷物があれば運送業者の手配がある。

私は手持ちの荷物だけで済ませたし、
子供もいないので、市役所と税務署の手続きしかしていない。

身軽な人なら、
１回役所に行くだけで手続きが完了することになる。

なお、マレーシアの場合、家具・家電は備え付けのため、
わざわざ日本国内での引越しのように、
自前で持っていく必要はない。

多くの国は家具が備え付けになっているので、
気軽に移住する上でとても助かる。

最初の移住先にマレーシアを選んだ理由

海外に出る決意をした時、
マレーシアを選んだのはなぜか？

これにはいくつかの理由がある。

まずは気候が安定していること。

真冬の日本からの移動だったこともあり、
年中快適な気候というのは魅力的だった。

そして花粉症から解放されたかったのだが、
これは海外ならどの国でもいい。

そしてビザの必要がないこと。

思いつきで出て行ったようなところがあるので、
用意周到に事前にビザの準備をしたりはしていなかった。

そもそも、私は手続き的なこととか、
役所に行ったりするのが面倒で仕方ない。

ビザを取るのが大変な国に
わざわざ行きたいと思わなかった。

マレーシアの場合、ビザなしでも 90 日滞在できるし、
それまでに出国してから再入国すれば延長可能。

実際は 1 年を過ぎると入国が難しくなっていったが、
とりあえず何も手続きなしで行けるのは気軽でよかった。

このビザの問題は、実は大きかった。

移住当時は気にしていなかったが、
ビザなしで移住できる国は
マレーシアやフィリピン、台湾、カナダぐらい。

限られた国限定のメリットだった。

移住先として人気の国というのも、
とりあえず試してみたいという動機になった。

海外で生活するのは初めてだったし、
事前に念入りに調べておいたわけでもなかったので
安全策にしておいたというか。

調査の手間を省く意味でも、
間違いのなさそうな国にしてみた。

私の場合、
マレーシアに移住した段階では、
海外生活についてピンと来ていなかった。

事前調査もろくにしていない。

むしろ移住した後になってから、
今後の人生を考えて他の国について調べたり、

ビザについて詳しくなっていった。

マレーシアのMM2Hビザを取得したのも、
移住後に決めたこと。

最初は取得する意思すらなかった。

物価が安いことも魅力の1つだった。

やはり物価が高いよりは安いほうがいい。

そして極めつけの理由は、
投資家としての修行に最適だったから。

当時は新興国の不動産バブルで、
日本人でも銀行ローンが組めたり、
土地を購入できるマレーシアには強みがあった。

タイやフィリピンをはじめとして、
外国人の土地購入は不可という国も多い中、
土地の所有権を得られるのは大きい。

シンガポールに隣接する国ということでも
投資家の注目を集めていたため、
そんな街の雰囲気を実際に住んで感じてみたかった。

実際、それによって得られた学びの大きさは計り知れない。

物心ついた頃にはバブル後の低迷期だった私には、
未来が良くなることしか考えていない人々の行動は
斬新だったし、最初は理解できなかった。

所得は多くはないのに、
異常に感じられるほど消費意欲が高い。

これも現地で暮らしてみて理解できるようになった。

こんな理由が組み合わさって、
初めての海外移住の場所はマレーシアに決まった。

もっとも、マレーシアが移住先として
人気No.1の座を獲得し続けていると聞くと、
他の国を見て周った後となっては違和感を感じざるをえないが。

日本でいいと思っていた

今では海外を転々とする暮らしをしているので、
私は行動力があったり、

英語ができると誤解されることがある。

しかし、実際はそんなイメージとはかけ離れている。

たとえば、英語。

海外に移住して英語を使うようになっても、
ペラペラと口をついて出ることはない。

片言の英語で
要件だけはどうにか伝わるレベル。

日常会話もままならない。

海外に出てからもそんな調子なので、
もちろん日本にいる時は勉強なんてしなかった。

移住直前の約１ヶ月を除いては。

それでも生活できてしまう。

正直なことを言えば、
海外なんて大した魅力はないと思っていた。

先進国で世界３位の経済大国の日本から、
わざわざ出る必要なんてないと。

ただ、移住前に唯一行った海外旅行、
移住の６年ほど前の話になるが、
その時にはヨーロッパへ行った。

なぜ、海外に興味もなかったのに、
急にヨーロッパまで行こうと思ったのか？

当時の私はなし崩し的に就職活動を回避し、
なし崩し的に派遣社員になり、
そこで未来が見えずになし崩し的に正社員になろうとしていた。

しかし、今さら就職しても新卒としての研修があるわけでもなく、
基本的なビジネスマナー等は自力で習得しなくてはならない。

しかも、いわゆる新卒採用としての横一線の就職活動はなく、
転職扱いだが職務経歴はない。

何だか、マイナス面しか目につかなかった。

済んだことは仕方ないにしても、
新卒で就職しなかったメリットが１つぐらいはあってもいい。

というより、なければ自分を納得させられない。

無理矢理にでも角度を変えて見れば、
「あの選択も悪いことばかりじゃなかった」ぐらいは

言えるようにしたい。

お金はないが、時間はある。

何しろ、派遣を辞めれば無職だ。

今後の予定はほとんど入ってない。

唯一入っている予定は、
平均寿命通りなら約60年後に「そろそろご臨終？」という
曖昧極まりない予定があるのみ。

そんな状況を活かすため、
海外旅行にでも行ってみることにした。

海外に行ったことはなかったし、
一度ぐらいなら行ってもいいだろうということで。

正社員になれば、
もはや海外旅行に自由に行くこともできないだろうし。

手持ちの資金、約80万円が尽きるまでという条件で、
ヨーロッパに行ってみることに決めた。

理由は特にないが、何となくの憧れ、という程度だ。

憧れとは言いながらも、

先進国なんてどこも大して変わらないだろうと
たかをくくっていたので、テンションは低かった。

が、ロンドンのヒースロー空港からバスに乗り、
地下鉄に乗り換え、
予約していたホテルの最寄り駅についた時、
その考えは消えた。

その幻想的な街並みを見て、
ここに来て良かったと心から思った。

忘れもしないあの駅・・・ちょっと駅名を思い出せないが（笑）、
その駅の周りだけが特別なのかもしれないと思ったが、
どこを歩いても日本とはまったく違う街並みが続いている。

私の知らない世界だった。

11 月にロンドンに到着し、
２月にアテネを出発するまでの間、
イギリス・ベルギー・オランダ・ドイツ・フランス・ポルトガル・
スペイン・ハンガリー・オーストリア・イタリア・
バチカン・ギリシャと 12 カ国を回った。

イギリス行きの航空券を買ったはいいものの、
その後の旅程も決めず、
ガイドブックすら持参しないという驚きの初海外旅行だったが、
とりあえず一通り色々な国を周り、
アテネの旅行代理店で帰りの航空券も現地調達できた。

外国人と話したこともない状態だったことを考えれば、
上出来だろう。

使い道のないパソコンを
ロンドン到着翌日に郵便局に持ち込んで船便で日本に発送したり、
「写真なんてプロのカメラマンにまかせて、肉眼で世界を見てこよう」と
カメラも持たずに行った結果、
旅先の風景を見事に思い出せなかったり、

振り返れば残念な点もあったが、
それでも行ってよかったことは間違いない。

ロンドンから始まった意外な寒さに震え、
パリでクレープを食べたいもののお金が足りなくて我慢して通り過ぎ、
時には電車が遅れて日付が変わってからミラノに到着し、
もはや朝を待つまでと一晩を身を切るような寒さの外で過ごしたりもした。

最後の方で懐具合に余裕が出てきたポルトガルでは
クリスマスに乗じてシャンパンを飲んでみたり、
イタリアでは本場のピザやパスタでご機嫌になったり、
貧乏旅行の醍醐味は色々と味わえた。

この体験がきっかけで、海外に興味をもつようになった。

もっとゆっくり旅をしたいという気持ちも出てきたし、
現地で暮らしてみたいとも思った。

ー旅をするように暮らし、暮らすように旅をするー

そんな理想を描いたのも、この旅がきっかけだった。

当時はまさか実現するとは思わなかったが、
後のホテル暮らしで
旅と暮らしが融合した日々が実現することになる。

移住先となったマレーシアはおろか、
東南アジアにすら行ったことがない状態で
いきなり下見なしでの移住となったのだが、
あの時の理想に近い生活が今はある。

元々海外志向を持っていたわけではないし、
ホームステイやワーキングホリデーにも
まったく興味を示さずに生きてきた。

そんな私が必要にも迫られずに海外で暮らしているというのも、
不思議な話だと思う。

ただ、実際にやってみると
それだけハードルが低いということでもある。

あの時、気まぐれにマレーシアに移住したりしなければ、
今でも日本のごく限られた場所だけで
暮らしていたのかもしれない。

１つの行動によって、人生は大きく変わってしまった。

想像していたよりもずっと急激に、
そしてずっと良い方向へ。

永住を前提としない海外移住

マレーシアに移住した当時、
そこでの生活はおそらく１年か２年になると予測していた。

明確な根拠があったわけではない。

漠然と、そのくらいになりそうな気がした。

その予想は当たり、
２年後にはフィリピンに移住することになった。

最初から永住を前提にはしていなかった。

あくまでも試しに住んでみるという感覚で、
マレーシアに住んだ後に日本に戻るのか、
他の国に行くのかは未定の状態。

ただ、マレーシアに移住して少したったら、
もう日本に戻ることは当面ないことを悟った。

この先数年か、数十年は海外で暮らすことになるのだと、
私はそこに快適さを感じるのだと理解した。

ただ、それはマレーシアでずっと暮らすというのではない。

あくまでも、それは通過点。

そもそもの話として、
私には永住という思想が今のところない。

いずれは一箇所に腰を落ち着けるかもしれないが、
当面は色々なところに住んでみたい気持ちの方が強い。

「地球は壮大な実験場」と言われることがあるが、
私は地球を使って自分の人生を実験しているのかもしれない。

どこに住むとどんな生活が待っているのか、

その疑問を解消することが最優先で、
変わり映えのしない生活を送ることに興味が持てない。

というより、
日本で暮らしている時が変化がなかったので、
その反動である気もする。

とにかく永住は考えていない。

多くの海外移住者は最初から１箇所に住み、
そこでの生活が終われば日本に戻ることを選ぶ。

それはそれでいいと思う。

特に家族がいたりしたら、
好き勝手に動き回るわけにもいかない。

私は昔から「皆と同じ」であることに価値を感じなかったが、
海外移住者の中でも
若干はみ出た存在なのかもしれない（苦笑）。

それも私らしいかと。

基本的に永住を目的にする場合と、
そうじゃない場合の違いはビザだけ。

安定して特定の国に住めるビザが永住には必要なぐらいで、
それ以外の点において特に違いはない。

私は海外に出てから各国に移住した人と知り合えたし、
次の移住先を探すために色々な国を調べている。

マレーシアに永住する気だったら、
わざわざ他の国のことを調べたりはしなかっただろう。

結果、期せずして海外生活事情について
詳しくなってしまった。

正直、こんな本を書いていること自体、
自分でも予想外だったぐらいで（笑）。

永住を前提にせずに転々とすることを望んでいるなら、
私のやっていることを参考にしてもらえばいい。

一箇所に永住を希望するなら
もっと簡単に実行できるし、
そのために必要なこともお伝えしていくので、
役立ててほしいと思う。

移住前にこれは決めておかないと

海外移住までのステップとして、
具体的に押さえておくべきポイントがいくつかある。

まずは事前準備として必要なことについて。

移住前に決めておくべきものとして、

・移住先の国

・ビザ

・今後数年間の計画

・日本の住居

がある。

移住先の国を決める必要があるのは言うまでもないので、
今回は詳しくは語らない。

具体的にどう選べばいいかということは、
改めてお話しようと思う。

ビザについてだが、
こちらも事前に決めておく必要がある。

いくら自分が移住したいと思っている国でも、
外国人の受け入れをしていなかったり、
年齢や収入・資産といったビザの要件を満たせないこともある。

ビザも重要な問題なので、
また改めて詳しく語ることにする。

今後数年の計画についてだが、
これは日本で家具や荷物を処分していくのか、
持ち家があるならそれをどうするか等に関わってくる。

確定ではなくてもいいので、
今後の見通しぐらいは持っておくと何かと便利。

すぐに日本に戻ってくるのなら
服や荷物を誰かに預かってもらったり、
貸し倉庫に保管してもらったほうが安上がり。

逆に長期間海外に住むのなら、
必要な物以外は処分してしまったほうがいいだろう。

捨てるのがもったいなければ、
ヤフオクやメルカリにでも出してみるという手もある。

日本の住居なのだが、
こちらは持ち家を持っている場合と、
日本側の拠点の問題の２つがある。

持ち家がある場合には、
それを処分するのか、
家族の誰かが住むのか、
賃貸に出すのかを決めなくてはならない。

処分するなら日本にいるうちに済ませておきたい。

マレーシアに移住してから持ち家を処分することにして、
日本とマレーシアを何度も往復するはめになった知人がいるが、
これは負担になるため、避けたいところ。

もう１つの日本側の拠点だが、
これは郵便物を保管してくれる家族や友人の家を持っておきたい。

たとえばクレジットカードの明細であったり、
そうした郵便物が届く先になるので。

できれば、移住前に住民票をその住所に移し、
移住時に住民票を抜くとなおさら便利。

行政上、住民票を抜く前の住所が
海外居住者の管轄となるため。

ビザを取るために無犯罪証明を取る場合なども、
この最後の住所の管轄の警察が担当となる。

逆に言えば、離島などの交通の便が悪い場所には
住民票を移さないほうがいい。

役所での手続きが発生した場合、
そこまで行くのが大変なので。

いくら海外に移住するにしても、
クレジットカード関係等の郵便物を０にするのは難しいので、
信頼出来る人に頼んでおけると何かと助かる。

移住先の候補を見つける方法

海外に移住したいものの、
まだ具体的に行き先が決まっていないという場合。

そんな時に候補地を見つける方法について。

最初に知っておいていただきたいのは、
海外移住はそれほど自由なわけではないということ。

どの国にも好き勝手に移住できるわけではない。

最も大きな原因はビザだが、
日本人がビザを取得できる道が開かれていないと
実質的に移住はできない。

したがって、
事実上移住できる国は限られる。

また、よほど冒険好きでない限り、
ある程度の利便性はほしいはず。

それが満たされている国も限定される。

外国人（移住先の国にとって）が多い街以外だと、
そもそも外国人への対応ができない場合も。

銀行の口座開設であったり、
部屋を借りる時に不便な思いをすることになる。

食事もやはり現地のローカル料理しかないというのは
長く過ごす上でつらい。

私が最初にマレーシアで住んだコンドミニアムは
徒歩圏内にローカルレストランしかなかったのだが、
半年で飽きてしまった。

マレーシア料理は日本人の舌に合うのだが、
それだけで過ごすのは厳しい。

中華やタイ料理のローカルレストランもあったが、
それを含めてもつらかった。

そのため、２年目のコンドミニアムは
とにかく立地最優先で決めた。

徒歩３分以内に３軒の日本料理店があり、
他にもイタリアン等がある場所。

ここに移ってからはローカルレストランには
まったく行かなくなった。

外国人向けのレストランが多い街なら、
こういったこともない。

イタリアン等の洋食も充実するし、
日本人が多いエリアなら本格的な和食も食べられる。

これは長く住む上ではやはり大切。

ということで、
外国人が多く住んでいる街、
もっと言えば日本人の移住者がそれなりにいる街を
候補とするのがとりあえずの無難な選択となる。

こうした街ならビザが取りやすい事が多いし、
利便性も高い。

ということで、
いわゆる移住先として人気の国を見てみると
参考になる部分は多い。

一部の国は年齢や資産額でビザの取得の可否が分かれるが、
とりあえずの候補を探す段階では役に立つので、
人気国を見てみると面白い。

なお、参考にしたいのは実際に日本人が移住している国。

単純に「移住したい国」だと、
ビザや物価を無視して憧れの国を選んでいるだけなので、
http://ijuusya.com/web/zairyuuhoujinsuu.html
現実には住むことはできなかったりするので。

外務省の統計が役に立つので、

以下のURLの「国（地域）別在留邦人数上位５０位推移 」
をご覧いただければと。

次回は移住先を選ぶ上でもっとも重要な
ビザについてお話しようと思う。

PS.
マレーシアとフィリピンに実際に住んだ後
非定住生活をして各国を見て周った結果、
どんどん移住先の選択肢は増えている。

さらに言えば、
物価の上昇等によって住みやすさが低下している国も。

以前はそれなりに住みやすい国と考えていたところも、
もっと良い場所がいくつも見つかれば
おのずと選択肢から外れていく。

移住したい国に住めるかどうか？ビザの現実

外国人が移住してくることに課すハードルの高さは、
国によって様々。

たとえばマレーシアの場合、
ビザなしで90日以内の滞在が可能。

出国・再入国で新しい90日が始まるので、
実質ビザなしで住み始められる。

ただし、この方法では1年を超えると
入国の審査が厳しくなる。

あるいはフィリピン。

入国の際に観光ビザのスタンプが押されるが、
それを延長することで2年まで滞在可能。

一度出国すれば、
再入国から2年住むことができる。

こうした基準がゆるい国がある一方、
億単位の資産を要求する国もある。

もはや富裕層以外は受け入れないという国だ。

移住人気国だと、カナダやオーストラリアは
ビザのハードルを高く変更したので、
今では簡単に住むことができない国になった。

たとえば、カナダの場合。

カナダには大量の中国人移民が入り込み、
バンクーバーは空港に到着した途端に
中国語の看板を目にするほど。

その原因となった
投資家移民制度の廃止が2014年に決まった。

およそ7500万円を投資すれば
永住権が得られる制度がなくなったことで、
カナダへの移住のハードルはまた高まった。

あるいはシンガポールの場合、
年々就労ビザ等のハードルが上がっている。

背景にはシンガポールの人口過密によって
現地の人の生活が不便になっており、
海外からの移民の受け入れ抑制を
求める声が強くなったことがある。

先日お会いしたシンガポール在住者の方も、
周囲に就労ビザを更新できずに帰国した人がいて、
来年も確実にシンガポールに残れる確信はないと話していた。

シンガポールの就労ビザは学歴や年収、職務経験等によって
種類や発行の可否が決定される。

去年と同じビザが更新できるとは限らず、
何のビザも取れなければ出国せざるをえない。

一人あたりGDPで日本の1.5倍となったシンガポールでは、
もはや日本人はエリートでもなんでもなく、
働くことを許されないこともあるのが現実。

ビザが取れるかどうかによって、
そもそも移住できるかどうかが決まってしまう。

いくら憧れたところで、
それはただの片思いと同じ事なので
現実も見ておく必要がある。

今回はビザについて基本的なポイントを
押さえていただこうと思う。

まず、ビザには現地で就労する就労ビザがある。

駐在員として日本から派遣されるパターンもあれば、
現地就職をして働くパターンもある。

外国人の労働者を無条件に受け入れる国は少ない。

特定の職種であったり、
資格や実績が求められることもあるので、
これは移住先の国ごとに調べる必要がある。

就職するわけではない場合には、
長期間住むならリタイアメントビザを使う事が多い。

ただし、リタイアメントビザは
50歳以上に年齢が限定されていることが多い。

国によっては55歳であったり、
フィリピンのSRRVビザのように35歳であったり、
マレーシアのMM2Hビザのように年齢無制限であったりするが、
よく見かけるのは50歳以上。

年齢の他に資産額や年金または国外の収入の額が
一定以上であることが求められるのが一般的。

他にも滞在ビザ等の制度が用意されている国もある。

このビザの面で考えると、

マレーシアとフィリピンは非常に有利な制度となっている。

先述の通り、ビザなしでも住み始めることができるし、
ビザの要件自体とてもゆるい。

以下はすべて永住権的な性質を持つビザの要件。

■マレーシアの MM2H ビザの場合

・50 歳未満

最低 50 万リンギット（約 1500 万円）以上の資産と
月額 1 万リンギット（約 30 万円）以上の収入が必要。

また、30 万リンギット（約 900 万円）を
マレーシアの金融機関に定期預金する必要がある。

・50 歳以上

最低 35 万リンギット（約 1050 万円）以上の資産と
月額 1 万リンギット（約 30 万円）以上の収入又は年金が必要。

また、15 万リンギット（約 450 万円）を
マレーシアの金融機関に定期預金する必要がある。

■フィリピンのクオータービザの場合

年齢制限なし。

５万USD（約500万円）を
フィリピンの銀行に送金する必要あり。

手続き終了後、
このお金はフィリピンから持ちだして問題ない。

マレーシアやフィリピンが移住先として人気なのは、
こうしたビザの取得の容易さも理由の１つ。

外国人を歓迎してくれているので、
住む側としては気軽なところがある。

ただし、こうした国であっても
いつまでもビザを容易に出してくれるわけではない。

過去にタイやオーストラリア等がそうしてきたように、
いずれビザの要件は引き上げられてしまう。

そうなる前にビザを確保しておく必要がある。

私の場合には、

マレーシアではMM2Hビザと
フィリピンのクオータービザを取得済み。

これは将来を見据えて、
いつでも住める国を確保しておく目的もある。

あなたが住みたいと思っている国は
ビザが取れそうなのかどうか、
この点を調べてみると現実的なハードルが理解できる。

時間のある時にでも、調べてみてほしい。

移住後の仕事について

リタイアして海外移住をする場合ならともかく、
まだ収入が必要な状態で移住したいのなら
仕事をどうするかが問題になる。

海外で暮らしたいと思いながら、
それを実現できない最も大きな原因は
仕事の問題ではないだろうか。

では、実際問題として、どのような選択肢があるのか？

まず、他人に雇われることを前提にした場合。

駐在員と現地就労がある。

駐在員とは、日本で就職した人が海外に派遣される場合。

ビザ等の手続きは会社がやってくれることが多いし、
日本での給料プラス各種手当てがつくため、
国内で働くよりも収入は増えるのが通常。

ただし、移住先や時期を選ぶことはできないため、
自分の人生をコントロールできるわけではない。

香港のように、
一定期間（香港の場合は７年間）就労ビザで滞在することで
永住権を得られるケースもあるが、
駐在期間はたいていそれよりも短い。

そのため、人によっては
帰国の内示を受けた段階で永住権取得のために退職し、
他の会社に移ってその国で働き続けるケースも。

現地就労は、その名の通り現地で職探しをすること。

こちらは希望の国で働ける反面、
現地の人に準じた給料となる。

アジアであれば「Jobstreet」などのサイトや、
現地のフリーペーパー等で求人を探すことができる。

https://ijuusya.com/web/jobsteet.html

人件費の安い国に行けば、
日本人でも安くで働くことになる。

物価の安い国は人件費も安いので、
たまに日本に戻ったりすると出費が痛い。

国によって相場はまちまちだが、
新興国の場合なら
日本で働くよりも稼げないことは前提になる。

序列的な部分でも
駐在員より下の位置に固定されるのが一般的なので、
その点に不満を持つ人も。

国によって就労ビザのハードルも異なり、
専門性のある仕事でなければ就労できないとか、
現地の人ができない仕事に限定とか、
一定以上の実務経験が必要とか、
そういった条件を設けている国も多い。

移住先の国民の雇用を確保するため、
こうした制限が設けられているのは一般的なこと。

駐在員では自由に住む場所を決められないし、
現地就労では安い賃金しか得られない。

しかも文化も言葉も違う国で苦労することが多い。

私が行なっているのは、このどちらでもない。

いわば第三の選択肢で、
場所に囚われない仕事を自ら行うことで
好きな時に好きな国に住む自由を得ることができた。

やっている仕事は同じなので、
どの国に住もうと収入が変化することはない。

物価の安いアジアの国に住めば、
収入はそのままで生活コストが下がる。

これが私の得た生活。

最も自由度が高く、
収入の額も自分次第で増やしていける。

このあたりのことは
メルマガで詳しく説明しているので、
ここで具体的な方法について触れることはしない。

移住後も仕事をするのであれば、
どの方法で収入を得るのがベストなのか？

今後の人生設計も含めて考えてみてほしい。

移住後の食事の注意点

マレーシアやベトナムをはじめとして、
アジアに移住した人、あるいは旅行で来た人の多くは
現地の料理が美味しいと口にする。

最初は入るのに抵抗のあるローカルレストランでも、
食べてみると意外に美味しい。

パクチー等の香草がふんだんに使われるタイ料理を除けば、
基本的には日本人の口に合う。

タイ料理は好き嫌いが激しく分かれるので、
これについては何とも言えない。

私がマレーシア移住後に住んだコンドミニアムは、
徒歩圏内にローカルレストランしかなかった。

ローカルレストランが密集した場所があり、
そこに歩いて行っていたのだが、
半年でマレーシア料理に飽きた。

その後はマクドナルドでデリバリーを頼んだりして、
最初の１年をしのいだ。
（マレーシアでは100円弱のデリバリー料を払えば届けてもらえる）

今ではマクドナルドに行くことはほとんどないが、
あの時期は本当に助かった。

２年目は別のコンドミニアムに引越し、
１日１食から２食は日本料理店へ。

マレーシアの日本料理はかなりレベルが高い。

日本人から見ても納得のクオリティーの店が普通にある。

現地で作られたチェーン系の日本料理店はひどいが、

個人経営の店は大抵美味しい。

移住当初は日本食が恋しいとは思わなかったが、
やはり半年もすると欲しくなるもの。

現地の料理ばかりでは飽きが来る。

これは部屋探しの際に考慮に入れたほうがいい。

なお、アジア各国を旅して分かったことだが、
日本人が昔から多く住んでいた都市においては
日本食レストランのレベルは高い。

マニラ、バンコク、クアラルンプール等の
大都市であればもちろんのこと。

もっと冗談のような料理が出てくるかと思ったが、
実際はそんなことはなかった。

なお、先ほどチェーン系は基本的にまずいと言ったが、
これは現地で作られたチェーンの店。

日本から進出している場合は話が別。

たとえば、焼肉の牛角やラーメンの山頭火、

たこ焼きの銀だこ、カレーのココイチ等は各国に展開しているが、
こうした店は美味しい。

それ以外なら個人経営の店を選んだほうが無難。

街によっては日本料理店が密集した場所がある場合も。

これはマニラやバンコクで見られる。

こうした場所に通える範囲で暮らすと、
食べ物の心配をする必要はなくなる。

なお、店で出される水や氷の安全性を心配する人もいるが、
これについては基本的には大丈夫。

よほどお腹が敏感な方でなければ、
特に気にする必要はないと思う。

私もお腹が強い方ではないが、
特に問題を起こしたことはないし、
周囲の移住者や旅行者を見ても大丈夫なので。

マレーシアでMM2Hビザを取得した時の話

今回は、マレーシアのMM2Hビザについて。

マレーシアのMM2Hビザ、
これは永住権に近い性質を持っている。

90日以内に出国して再度入国すれば、
ビザなしでも戻って来れるのがマレーシア。

ただし、この方法も1年を超えると
入国が難しくなってくる。

長期で住むのならMM2Hビザが必要だった。

とは言え、
私はずっとマレーシアに住むわけではなく、
今後いつでも住める保証を得ておくためにMM2Hを取ることにした。

むしろ、取得したらすぐにフィリピンに行くという状況で。

私の場合、マレーシアの日本領事館から
必要書類の無犯罪照明を取り寄せることにしたため、

ずいぶん時間がかかってしまった。

手続き開始から２ヶ月以上。

と言っても、無犯罪証明が日本から届くのを
待っていただけだが。

が、それもついに終わる。

必要書類さえ揃えば、
実質的な手続きは半日で完了した。

朝 10 時にエージェントのオフィスへ。

その日の手続きについて、改めて説明を受けた。

・健康保険の加入

・健康診断

・定期預金を組む

この３つが MM2H 取得のために行う手続き。

まずは健康保険。

こちらは１年で225リンギットだった。

日本円で約6600円。

マレーシア以外の国でも使えるらしいが、
１日にカバーできるのが1,500円程度だったり、
あまり使っても価値はない。

MM2H取得のために健康保険が必要なので、
一番安いコースに入ることにした。

治療費が高額になった場合だけ
カバーしてくれる保険なら
この機会に入っておきたかったが、
今回の保険は医療費が高額になると
自費負担が大きくなって意味がない。

あくまでMM2Hの手続きと割り切った。

ちなみに、マレーシアに移住してきた
日本人の人が外部スタッフで働いていて、
通訳をしてくれるので英語がわからない部分も
問題なく手続きできた。

その後の手続も最後まで、
この通訳の人が一緒に来てくれた。

続いて、エージェントの車で病院へ。

こじんまりとした小さな病院。

検査というと採血があるのだろうか？

やはり注射はするのだろうか？

それはあるだろう・・・

だって健康診断だし。

とソワソワした思いを抱えながら言ったのだが、
実際は問診と聴診器によるチェック、血圧測定だけだった。

問診の内容も
「糖尿病はないか？」とか
「心臓病は持ってるか？」とか
「五感は全部正常か？」というぐらい。

紙で示されるし、
通訳同伴なので英語が分からなくても大丈夫だった。

かなりざっくりした質問を受け、
軽く聴診器を当て、血圧を測ったら終わった。

採血なし。

注射なし。

所要時間３分。

「この健康診断要るのか？」
という疑問よりも注射なしの方がうれしい。

別に注射が怖いわけではないが。

いや、本当に。

それから、今度はHSBCへ。

ここでちょっと問題が。

MM2Hの申請要件に、50歳以下だと
1500万円の金融資産を持っていること、
900万円の定期預金をマレーシアの銀行に
入れておくことの２つがある。

資産の証明のため、
あまり預金を移動させるのはまずいようなので、
HSBC香港のお金をそのままにしていた。

そして、銀行でHSBC香港からマレーシアに

送金することにした。

自分のHSBCの口座間なので
グローバルトランスファーでリアルタイムに反映されるのだが、
ふと問題に気づいた。

セキュリティデバイスを持ってきていない。

これがないと、送金ができない。

自分の口座同士でも。

結局、一度家に戻って、
セキュリティデバイスを使って送金することに。

送金が終わったのを通訳の人に確認してもらい、
パスポートを預けた。

MM2Hはパスポートに貼り付けるため、
明日の夕方に持ってきてくれるとのこと。

そして、半月と待たずにフィリピン移住。

ビザなしでマレーシアに滞在し、
出て行く直前でMM2H取得という不思議な動きに（笑）

とは言え、

重要なのはいざという時への備えなので、
MM2H 取得が大きな意味を持つのは間違いない。

それにしても、
結局手続きは午前中に終わった。

２時間程度ですべて済んだし、
ビザ取得の手続きで遠方まで足を運ぶ必要もなかった。

私がこの手続きを終えた後、
エージェントがクアラルンプールの MM2H 担当の移民局へ行き、
取得の手続きをしてくれるという流れ。

そして一夜明けて翌日、
夕方に MM2H ビザの貼り付けられたパスポートを渡された。

初めてのビザ取得だったが、
拍子抜けするほどあっさりと手続きを終えることができた。

PS.
MM2H について
信頼できるサポート会社を探している場合は、
必要書類がそろえば

取得成功率が100％の会社があるので、
情報が必要な方は以下へ登録を。

https://ijuusya.com/professionals/mm2h.html

登録後、折り返し具体的な会社名をお伝えさせていただく。

海外ATMの恐怖!?引き出した現金が・・・

海外のATMを使っていて、
引き出した現金がATMに飲まれる
（取り出す前に取り出し口が閉じてしまう）
という話を聞くことがある。

もはや都市伝説的な話として
いかに海外のATMがいい加減か語られるが、
実は純粋に機械の不具合ということは少ない。

日本の場合、
引き出したお金を取らないとATMが音を鳴らしたりするが、
海外ではそうした機能がなく、
しばらくするといきなり取り出し口が閉じることがある。

その結果として現金を回収できないのだが、
出てきた現金をすぐに受け取れば問題は起こらない。

事実、私は移住先のマレーシアやフィリピンでも、
旅先でもそうした経験には遭遇していない。

海外移住仲間を見ても同様。

ただ、香港金融のプロに言わせると、
いつまでも現金を放置して回収できなくなることは
少なくないらしい。

原因さえ分かってしまえば、
実は海外ATMで現金を失わないためには、
さっさとお金を受け取ればいいと理解できる。

なお、これとは別に、
最初からお金が出てこないことがある。

この場合には、
上限額に引っかかっている可能性がある。

国や銀行によって1日の引き出し上限、
あるいは1回あたりの上限が決まっているので、
それ以上の金額を指定すると
引き出し行為がキャンセルされる。

この場合には、
銀行口座からお金が引かれることはない。

これには最初は焦らされたのだが、
帰宅してネットバンキングで確認したら
取引履歴は存在せず、
残高が減っていることもなかった。

ATM によって
上限額が明示されていることもあれば、
まったく記載がないこともあるので、
その点は自分で判断するしかない。

アジア各国だと、
１回の引き出しは３～４万円程度が
上限になっていることが多い。

ただし、フィリピンでは基本的に２万円程度だったり、
国によって様々。

うまく引き出せないときには、
金額を下げるとうまくいったりするのでお試しを。

タイは海外移住において過去の国なのか？

仏教国で人々が穏やか、物価は安く、
日本人にとって親しみやすい国。

タイは海外移住先として人気を誇ってきたし、
何度も旅行に行ってその良さも理解できた。

しかし、日本人がタイに住みたいと思っても、
向こうはハードルを上げている。

過去のように容易にビザが取れる状況ではなくなってしまった。

また、以前に比べて
入出国を繰り返すビザランにも
厳しい姿勢を見せるようになっている。

タイのビザは50歳以上のリタイアメントビザ以外、
取得するのが困難な状況。

必然的に50歳未満が住むのは難しい。

もっとも、私がマレーシアに住んでいた時期と違い、
タイランドエリートカードが復活したため、
この点は朗報。

200 万バーツ（800 万円弱）を支払えば、
20 年住める権利や空港の優先レーンの利用権等を含む
エリートカードを購入できる。

こちらは預託金のように
期間終了後に戻ってくるお金ではない。

あくまで払い切りのお金のため、
まさに「お金でビザを買う」という表現がぴったりくる。

ただし、政権が安定せず、
しばしば大規模デモやクーデターが起こるタイ。

エリートカードが再び打ち切られることがあっても
特に不思議はない状況でもある。

50 歳以上なら、リタイアメントビザが取得可能。

タイ国内に 80 万バーツ（約 240 万円）以上の預金があるか、
または月 6 万 5 千バーツ（約 20 万円）以上の年金収入などがある、
あるいは預金と年金の年間収入を合せて
80 万バーツ（約 240 万円）以上ある人が対象となる。

この年齢制限をクリアできるかどうかが、
タイに住む上でもっとも大きな関門となる。

50歳未満だと、現地で就労するのも容易ではない。

法人を作って就労ビザを取るにも、
日本人１人にビザを出すのに
現地のタイ人を４人雇用する必要がある。

この人数は業種によっても変わってくるが、
目安としてこれだけの人数が必要に。

しかも失業率の低いタイにおいては、
人が簡単に辞めてしまう。

人が辞めると事業にも支障をきたすが、
必要な人数を確保できないとビザにも問題が・・・。

こうした現実がある。

タイはかなり住みやすい国ではあるが、
バンコクの４月や５月の暑さは異常。

この時期のタイの最高気温は35度程度となっているが、
バンコクは体感気温で40度近いのではないかと思う。

アスファルトに囲まれた大都市で熱がこもるので、
昼間に外を歩いているとフラフラするぐらいの暑さ。

そして、雨季になると冠水が。

洪水にまではならなくても、
あちこちでくるぶし程度まで水が来てしまう。

５つ星ホテルの目の前の道が
短時間のスコールですっかり冠水しているのを見た時には、
私も驚いた。

貧しい地域だけならともかく、
バンコクの中心部、アソック駅から徒歩３分の
５つ星ホテル前がこの状態なのは厳しい。

タイを歩いていると外国人が多いのが分かるが、
旅行者だけではなく移住者も
すでに十分確保したのだろう。

タイのビザ政策を見ると、
新規での受け入れに慎重な姿勢がかいま見える。

こうした状況においては、
リタイアメントビザの要件が今後変更されるリスクもある。

たとえば、資産要件が厳しくなり、
一度は移住したものの、
数年後には出ていかなくてはならなくなるかもしれない。

50歳以上の場合であっても、
こうしたリスクは念頭に置いておいた方がいいだろう。

シンガポール移住は富裕層の特権?

富裕層のシンガポール移住がかつて話題になったが、
これが一般層にまで広がるのかと言われれば、
それはありえない。

なぜなら、そもそもシンガポール側が
高いハードルを課しているので、
希望者の意思に関わらず住むことができないため。

具体的には、

・250万シンガポールドル以上で新規事業を立上げる、
　または既存事業の拡大に投資できること。

・最低250万シンガポールドルを政府承認の
　シンガポールのベンチャーキャピタルファンド
　又はシンガポールにベースをおく経済開発を目的とする
　財団や信託に投資できること。

約２億円の出資がなければ、ビザを取ることができない。

シンガポールは東京23区ほどの国土の国。

無尽蔵に人を受け入れる余地などない。

そんな国がここまでの発展を遂げているのは、
徹底的に富裕層を囲い込んでいるのが一因。

低税率のタックスヘイブンにすることで、
富裕層がシンガポールに移住し、
そこで納税する仕組みを作っている。

税率を下げたとしても、
富裕層が海外から移住してくれば利益は出せる。

高税率にして富裕層が海外に逃げていく日本とは
真逆の政策を取っている。

そして、シンガポールにとって必要なのは富裕層であって、
日本人の中間層は相手にもされていない。

そのことは、約２億円の出資という条件から
容易にうかがい知れる通り。

私の知人にも、37歳のフェレス卿をはじめとして
何人かシンガポールに移住した人がいるが、
彼らは全員、個人年収が軽く億を超える。

そのレベルになってこそ候補になるのがシンガポール。

残念ながら、誰にでも住める国ではない。

きれいな国だし治安も良いのだが、
日本人の経済レベルなら気軽に住めるという
東南アジアの経済状態からかけ離れている国なので、
先進国と同じように考えたほうがいいだろう。

税率の低さ以外の条件で言えば、
ここまでのコストをかけてシンガポールに移住するぐらいなら
ヨーロッパのビザを取るほうが個人的には魅力を感じる。

シンガポールはマレーシアの隣国なので
何十回と訪れたのだが、
タックスヘイブンであることを除いたら
コストパフォーマンスは必ずしも高くない。

物価や家賃も高いので、
先進国に住んでいるのと変わらない。

もちろん自分で起業や投資をしなくても、

シンガポールで雇われて働くという方法はある。

ただし、よほど高額所得者でない限り、
タックスヘイブンとしての恩恵は
ろくに受けられない。

シンガポールは旅行で行く程度十分だと思っているし、
仮にビザの要件がゆるかったとしても
移住先の候補になったかどうか・・・。

移住先としてマレーシアはどうなのか？

私が初めて移住した先でもあるマレーシア。

海外移住先としての人気ランキングでも
常に上位に来る国。

１位を飾ることも多い。

マレーシアはたしかに海外移住に適した国。

その理由はいくつかある。

■ビザの要件がゆるい

ビザなしで90日までは滞在できるし、
その状態で入出国を繰り返して1年程度ならロングステイ可能。

それ以上の期間になるとビザが要るが、
MM2Hビザなら要件はゆるい。

・50歳未満なら

最低50万リンギット（約1500万円）以上の資産と
月額1万リンギット（約30万円）以上の収入が必要。

また、30万リンギット（約900万円）を
マレーシアの金融機関に定期預金する必要がある。

・50歳以上なら

最低35万リンギット（約1050万円）以上の資産と
月額1万リンギット（約30万円）以上の収入又は年金が必要。

また、15万リンギット（約450万円）を
マレーシアの金融機関に定期預金する必要がある。

この条件は世界的に見ても容易に取れるビザとなる。

■年中気候が安定している

雨季・乾季はあるものの、
基本的に１年中気温は大きく変わらない。

体にとって楽な上、
服も夏用の服しかいらないので収納スペースが空く。

経済的にも健康的にも望ましい気候。

■物価が安い

日本の半分程度の支出で生活できる国なので、
経済的にゆとりを持って暮らすことができる。

日本からの収入を得ながら、
あるいは一定の資産を作った後に住む場所で、
生活レベルを大きく落とさずに支出をカットできるため、
居心地のいい国の１つ。

■日本人が外国人として目立たない

マレーシアは多民族国家で、

マレー系の他に中華系やインド系の住民も多い。

そのため、日本人が住んでいたとしても
大きな違和感がない。

この点は気楽に暮らせるという意味でプラス。

■英語もそこそこは通じる

主要言語はマレー語だが、英語もそれなりに通じる。

もっとも、マレーシア人は英語より中国語を話せる人が多いので、
英語は第３言語扱い。

東南アジアの中でも英語がよく通じるとは言えないが、
とりあえず生活していくのに必要な程度には言葉が通じる。

マレーシアが海外移住先として人気なのは納得できる。

ただし、もちろん良い面ばかりではない。

旅行するぐらいならともかく、
実際に住んでみると色々と不便なところが目につくし、
コストパフォーマンスもそこまで良くはない。

平均所得が７万円とタイやフィリピンの倍程度なので
人件費もそれほど安くはなく、
日本と比べたら安価にしても、
アジアの中では物価が安いわけでもない。

そして労働の質は決して高くなく、
ホスピタリティも周辺諸国と比べていまいち。

街中に普通にネズミは歩き回っているし、
トイレも汚い（基本トイレットペーパーもない）。

安心して自転車も乗れないぐらいに道は未整備で、
ところどころ陥没しているのは標準仕様。

車優先の社会で信号も少なく、
歩行者にはなかなか厳しい環境。

ネット環境も整っておらず、
コンドミニアムによってはつながらなかったりするし、
全体として遅い。

TM という大手の会社では４メガの ADSL が最速で、
それもごく限られた地域でしか使えなかった。

日本では ADSM でも 50 メガや 100 メガの地域が多いし、
光回線も何年も前から普及している。

このあたりの差は大きい。

ただし、ネット環境は改善されてきているので、
物件選びの際に気をつけることでリスクは回避しやすい。

自宅でネットを使いたい場合には、
この点は慎重に部屋を選んだほうがいいだろう。

誘拐等の犯罪が多いため、
子供が単独で歩ける場所はごく限られており、
通学も親が送り迎えをするか、
スクールバスで通うのが通常。

たとえ歩ける距離だったとしても、
安全面から子供だけでの通学は難しい。

また、フィリピンやインドネシアに比べて
メイドが見つけづらいことも、
マレーシアに住む際のデメリットの１つと言える。

私の知人も子供の面倒を見てくれるメイドを探していたが、
苦労の末にようやく見つけていた。

あまり仕事熱心なメイドではなかったようだが、
クビにしても次が見つかる目処も立たないため、
そのまま雇うしかない。

一方、エアアジアがクアラルンプールを拠点としており、
アジアを安くで旅行して周るためには
絶好の立地でもある。

この点はバンコクやマニラ、ホーチミン等と比べても
うらやましい環境。

誤解されがちなフィリピンを移住先として見ると

「フィリピンって危険じゃないんですか？」

「あんまり良いイメージがないですが、大丈夫ですか？」

そんな声があるのは分かる。

実際、フィリピンを国全体としてみれば、
決して日本人が住みやすいとは言えない。

ただ、フィリピンには特殊な事情がある。

これを理解している人がほとんどいないのが、
情報がかたよってしまう原因。

実際に住んでいる人なら
当たり前に感じていることではあるのだが、
日本にいる人にはなかなか伝わらない事実がある。

■キーワードは「５％」

国土全体としてみると、
フィリピンは豊かでもないし、十分に安全でもない。

ただ、ここでフィリピンが実施している特殊な政策について
知ってほしいと思う。

それは、国土の上位５％のエリアにおいては
外国人でも安心して出歩ける街作りを
フィリピンは行なっているということ。

国全体としての発展にまかせていれば、
当然スピードは遅い。

まして、フィリピンは小さな島が多い国。

全国的な発展を急速に遂げることは困難。

しかし、外国人が落としていくお金はほしい。

ボラカイやエルニドのようなリゾートはもちろん、
外国人が観光に来たり、住んだりするところは
安心できる環境を作るのが
国益にかなうことを彼らもよく知っている。

その結果として、
一部エリアの治安を徹底的に改善し、
さらには街の景観も先進国レベルにしている。

たとえば、マニラの中でもマカティやグローバルシティ。

こうしたエリアは見た目もきれいだし、
安全に暮らせるようになっている。

私もマカティに住んでいるが、怖い目にあったことがない。

これ以外にもセブ島の外国人が住んだり、遊んだりするエリアも
上位５％の場所に該当する。

日本人が移住するとなれば、
基本的にこうしたエリアになる。

そのため、治安も良いしきれいな場所。

現地の人と比べて裕福な外国人が住むエリアなので、
当然レベルの高いレストランも多い。

フィリピンに移住するか考える時に、
フィリピンという国全体を見るのは事実を反映していない。

実際は、こうした上位５％の土地の住み心地が
日本人が移住する際に問題となる。

同じ東南アジアでも、
バンコクやクアラルンプールは
ここまでエリアによる差が顕著ではない。

全体的にそこそこではあるものの、
フィリピンの上位５％に対抗できるほどのエリアは
それほどないという事実がある。

そして、国全体としてみるとフィリピンは所得も高くないので、
安い人件費による利益を受けられる。

たとえば、住み込みのメイドさんを雇っても月に３万円。

通いで掃除業者を呼んでも、
週２で来てもらって月に2,000円程度。

美容院は高級ショッピングモールの中でも1200円程度。

街中のローカル向け美容院なら

120円でカットをしてくれる店もある。

クリーニングは1キロ60円。

マッサージは1時間600円。

一等地に住みながらも、
こんな生活を送ることができる。

フィリピンはまだ外国人を積極的に受け入れているので、
ビザの要件もゆるい。

たとえば、クオータービザ（永住権）の場合。

５万USドル（500万円程度）をフィリピンに送金すればいい。

手続き終了後、このお金は国外に出して問題ないので、
ずっと預金しておく必要はない。

年齢制限なし。

上記の資金が用意できなくても、
見せ金として用意してくれる申請代行業者もある。

あるいはSRRV（リタイアメントビザ）の場合。

35歳以上であることが必要。

その上で、50歳未満なら5万USドル（約500万円）の預金を
フィリピン国内に入れておく必要がある。

50歳以上なら2万USドル（約200万円）でいい。

クオータービザの場合には永住権なので、
今後の制度改訂によって一度取得したものが
廃止される可能性は低いと考えている。

実はこの点は重要で、
たとえばマレーシアのMM2Hビザのように
10年で更新のものは、
そこまでにルールが変わった場合、
更新が不可能になる可能性も。

事実、MM2Hの取得要件を厳格化するという意見があり、
マレーシアの観光文化相が
質の高い申請者を確保するためにハードルを上げて、
定期預金額を200万リンギット（約6000万円）に
引き上げるべきとコメントした。

私は30万リンギット（約900万円）の定期預金でMM2Hを取得したが、
追加の預金なしで10年後に更新できる確信はない。

しかし、クオータービザのような永住権なら
リスクにさらされる可能性は低い。

ここは永住権とビザの違いだ。

ビザが容易に取れること。

人件費がアジアの中でも安く、物価が安いこと。

日本人（外国人）が住むようなエリアは安全であること。

フィリピンにはこのような魅力もある。

ただ、これもまた魅力の一部だけ。

次回はもう少しフィリピンについて
別の角度から語ってみようと思う。

PS.
フィリピンは移住先として魅力的な国の１つ。

その一方で、日本人にとって身近な国、そうでもない国を含め、
魅力的な候補をいくつも見つけることができた。

ただし、これらの国は条件の変更が頻繁であるため、
最新の情報でないと無用な混乱を招くだけ。

ここではあえて、どの国なのかは伏せておくことにする。

そういった最新情報も含めてお伝えできる場を用意する予定なので、
詳しくはそちらでお伝えしようと思う。

フィリピンに実際に住んでみて

フィリピンに実際に移住してみて感じること。

この国はマレーシア以上に住みやすい。

気候が温暖で１年を通してほぼ同じ気候なのは
フィリピンでも引き続き変わらない。

季節の変わり目に体調を崩したりしないし、
日本の真夏のような厳しい暑さもない。

朝晩はエアコンなしで過ごすことができる。

食べ物はというと、
私はマニラの中でもマカティという場所に住んでおり、
外国人の住むエリアにいる。

そのため、外国人向けのレストランが多数。

徒歩圏内で100では済まない。

ショッピングモールのグリーンベルト、グロリエッタには
それぞれ30以上のレストランが入っている。

リトルトーキョーに行けば10軒ほどの日本料理店があり、
さらに近くのオフィスビルの多くも
それぞれに数軒のレストランがある。

その他の店も含めると、やはり100は下らない。

内容も様々で、ローカル向けのフィリピン料理から、
高級フィリピン料理、日本料理、イタリアン、ペルシャ料理、
タイ料理、ギリシャ料理、フレンチなど、
各国の料理がひと通り揃っている。

先進国の首都と同じレベルで
食を楽しむことができる。

そして、フィリピンは
アジアでもっともきれいな英語を話す国。

実際、どこに行っても英語で話が通じる。

この英語普及率はマレーシアやタイと比べても
明らかに高い。

親日的な国なので、日本人に対する感情も良い。

本当に住みやすい国だ。

マレーシアはイスラム教の国なので
そこになじめないという話も聞くが、
フィリピンはキリスト教なので抵抗も少ない。

実際のところ、
生活していて無宗教であることが問題になることもない。

物価・人件費の安さも含め、

実際に生活して住みやすい国なのだが、
もう１つ大きなメリットが。

すでにお伝えしたとおり、
フィリピンはビザがとても取りやすい国。

それに加えて、
とりあえずは観光ビザで住み始めることができる。

入国すると自動的に観光ビザがパスポートに押されるので、
それを更新していく形で滞在が可能。

そのため、まずはビザの用意をせずに移住して、
フィリピンに来てからビザの手続きをすることもできる。

しかも、フィリピンは昔から日本人が多く住んでいる国。

ビザや部屋探しのサポートも充実していて、
日本語で完結できる。

こうした大事な場面で不慣れな英語を使わず、
しっかり日本語でやり取りできるのも安心なところ。

私も住む場所を探したり、
ビザを取る時には日本人向けの業者を利用。

後でトラブルになるリスクを考えると、

現地業者より多少割高になってもそれがベストだと思っている。

【フィリピン移住に特化した情報は以下に登録を】

https://ijuusya.com/philippines-ijuu/

フィリピン移住については上記のメール講座にて
特化した情報を提供しているので、
興味があればご登録をどうぞ。

移住先に拒まれるのは当たり前

マレーシアに移住した時には気づいていなかった事実。

その後、各国に住もうと思って知ることになったこと。

それは、移住者を簡単に受け入れる国の方が特殊で、
普通はそんなことはしていないということ。

各国が移住に必要なビザの発行に慎重なのも、
よく考えてみれば当然のこと。

他国の人間を受け入れるのなら、
デメリット以上のメリットがなくてはいけない。

では、受け入れる側の、
つまり移住先の国のメリットとは何なのだろう。

まずは外国人が落としていくお金がある。

特に新興国の場合には、
外国人が生活やその他で支払うお金は大きな収入になる。

国内で消費が行われることで雇用も生まれる。

他のメリットとしては
専門性の高い職業の人や能力の高い人を受け入れることで
国内の産業を強化することも考えられる。

アメリカやシンガポールは優秀な人材を囲い込んでいるが、
ここに該当する人はごくごく一部。

相手の国に認められる形での実績や経歴が必要なので、
あまり柔軟な対応も期待できない。

こうしたメリットのない人間を受け入れるのは、
相手にとってはリスクでしかない。

そもそも、移住者を受け入れるのには
明らかなデメリットもある。

たとえば、雇用が奪われるという問題。

外国人が現地で働くようになれば、
限られた働き口を自国民と奪い合うことになる。

ほとんどの国は失業率を下げることに苦心していて、
単純な労働力など間に合っている。

モノ余りの時代に誰でもできる仕事しかできない人材は、
多くの場合に邪魔にしかならない。

しかも、単純労働力が必要な場合においても、
それは賃金水準の安い国から受け入れるのが常識。

日本人を時給100円で働かせれば、
「たった100円で注文ばかりつけやがって」となるのが、

時給50円の国の人に時給100円出せば
「こんなに稼げるなら多少無理してでも頑張ろう！」
となるのだから、
雇う側・受け入れる国がどちらを選ぶかは一目瞭然。

さらには外国人が犯罪をおかすこともある。

特に低所得者はこの点を危険視される。

資産も収入もなければ、
犯罪に走るか不法就労をするというのが
王道パターンなのだから。

そもそもビザや永住権の制度を整えたり、
制度を運用するのにも費用がかかるので、
移住希望者が少ない国は制度を作るのも無駄なコストになる。

こうしたデメリットをメリットが上回った場合だけ、
わざわざ他国の人間を受け入れることになる。

そういった事情を考えると、
日本人が海外移住を考える場合、
大きく分けると２つのケースがある。

１つ目は、新興国に喜ばれて移住する場合。

マレーシアやフィリピンがこれに当たる。

平均的な所得・資産状況の日本人でも、
向こうから見るとちょっとしたお金持ち。

「住んでくれるのなら、ぜひ！」という状況。

ビザの条件もゆるく設定されている。

２つ目は、厳しい条件を満たせば住むことを許可される場合。

ほとんどの国はこちらに該当する。

オーストラリアやニュージーランド、
カナダ、アメリカ、シンガポールなどなど。

数千万から数億円のお金を積んでビザを取ったり、
能力を認められたごく一部の人が住むことができる。

今では２つ目のパターンに該当する国も、
以前は１つ目に該当した時期があったりする。

オーストラリアやニュージーランドは
まさにこれに該当する。

外国人を無尽蔵に受け入れるというより、
ある一定のところまで確保できたら条件を厳しくして
より質の高い移住者に絞るのが各国がたどってきた道。

そのため、移住できる国は常に変わっていくし、
これからも変わっていく。

ただ言えることは、
住みやすい国ほどハードルが高いのが通常だし、
長期の滞在ビザや永住権を取りやすく変更することはまれ。

いわゆる移住先として人気の国の一部が
簡単に住めるわけではないというのも、
こうした事情を反映している。

かつては簡単に取れたビザがあって、
そのイメージだけが残ってしまっている。

人気はあるのだが、
いざ住もうと思うと条件が厳しいことに気付かされる。

マレーシアやフィリピンの移住条件がゆるかったので
もっと気楽に色々な国に住めるものと誤解していたが、
実際はそんなに簡単ではない。

むしろ、日本人が（他の国の国民でもそうだが）
簡単に移り住める国なんてごく一部で、

そちらの方が例外であるというのが現実。

それを前提に今後の計画を立てておく必要がある。

移住先でいざという時の病院を確保する

海外に移住したら、
早い段階で病院を探しておいた方が安心できる。

特に新興国の場合、
ローカルの人向けの病院は
日本人から見ると
衛生的にも設備的にも不安を感じることがあるので、
外国人向けの病院を見つけておく方が確実。

マレーシアに住んでいた頃の場合、
いざという時はシンガポールに行くという手もあったが、
やはり街の中の方が行くのが楽。

そこで外国人向けの病院を見つけておいて、
足に痛みが走った時にタクシーで行った。

徒歩圏内にも小さな病院がいくつかあったが、
「ちょっとそこに行くのは・・・」
という外観だった。

医療面でしっかりしているのかどうかは不明だが、
不安を感じながら治療を受けること自体が
望ましいことではない。

マニラの場合には、
家から徒歩２分弱のところに大きな病院がある。

そもそも私が住んでいるマカティが外国人の居住エリアのため、
この病院も先進国レベル。

日本語ができるフィリピン人の女医さんまでいて、
しかも美人だった。

通いたいぐらいだったが、さすがに病院なので・・・。

フィリピンの場合、
アメリカ等で働いた経験のある医師や看護師も多く、
ちゃんとした病院なら医療レベルも高い。

逆に地方の現地の人向けの病院は
野戦病院を連想させるという話も聞く。

重要なのは、信頼出来る病院を早いうちに見つけておくこと。

日本でも引越し先で病院を見つけておくべきと言われるが、
それでも日本なら体調を崩してから探すのもそれほど難しくない。

状況が悪ければ救急車を呼ぶこともできる。

しかし、海外で一から探すとなるとそれなりに苦労するし、
救急車は高額である場合もある。

そもそも救急車の連絡先が分からないことも。

ある程度大きな病院の名前と住所があれば、
タクシーでそこまで行くことができる。

そのくらいの備えは早めにしておいた方がいいだろう。

病院の探し方としては、
単純に大きな病院を近くで探してみることもできる。

コンドミニアムのスタッフに聞くとか、
部屋探しの時に不動産業者に確認しておいてもいいだろう。

あとは日本人向けのフリーペーパーに載っていることもある。

現地の日本人会に入るのであれば、
（私は入っていないが）
そこで紹介してもらう手もある。

移住先の国がどこであるかにもよるが、
新興国でも外国人向けの病院は
日本人でも安心できるレベルだったりする。

早めにそうした病院を自宅近くで確保しておけば、
安心して生活することができる。

なお、受診の際はパスポートの提示を求められる事が多いので、
パスポート持参で行くほうが無難。

支払い能力がないと治療を開始してくれないこともあるので、
クレジットカードも持参することをお勧めする。

信頼できるサポート会社

移住を含め、海外を活用する上で
ビザの取得や銀行の口座開設等、様々な場面で
信頼できる専門家やサポート会社の助けが必要になる。

そこで、私が信頼している会社を以下にまとめた。

専門家のサポートが必要な場合は、ご参考に。

■タイランドエリートカード
https://ijuusya.com/professionals/thailand-elite.html

■マレーシア、MM2H
https://ijuusya.com/professionals/mm2h.html

■HSBC 香港口座開設
https://ijuusya.com/professionals/hsbc.html

■フィリピンのクオータビザや SRRV
https://ijuusya.com/professionals/philippines-visa.html

あとがき

2011 年２月に日本を出てから、
これまでマレーシア、フィリピン、台湾、タイと

４ヶ国に住んできたり、
１年半以上ホテル暮らしをしながら各国を周ったり。

そんな経験から得られたことについては、
メルマガの中で引き続き発信していくので、
そちらも合わせてご参考にしていただければと。

メルマガでは、たとえばこのようなことをお伝えする予定。

・相談の多い移住後の仕事について。
　私が１つの国にとどまらず、好きな国に好きなタイミングで住めるのはなぜか？

・各国に移住した友人達の例から見るそれぞれの国での生活

・世界各地を周って、移住に適している国を紹介

・最低限こうした手口には注意を。海外で日本人を狙う詐欺の常習的な手口

・食事は海外生活における重要なポイント。
　特に東南アジアの場合には、旅行では気づかないある落とし穴が

・移住にあたっての語学力の問題。
　現地の言葉を覚える必要はあるのか？英語はどの程度必要か？
　片言英語のみで十分生活できる理由とは？

・海外の病院事情。
　フィリピン・マレーシア・タイ・台湾・中国で病院に行った病弱の体験談（苦笑）

・海外でむやみに銀行の口座を開設しない方がいい理由

・移住先での食事事情
　残念ながら、食べるのが苦痛になるほど合わなかった国も

・台湾移住の前に３ヶ月弱かけて下見をしてわかったこと
　下見なしで移住したマレーシア・フィリピンと比べて
　入念な下見で得たものと無駄だったこと

・タイランドエリート・イージーアクセスを取得した理由。
　MM2H やクオータビザとは異なる戦略について。

・４カ国目の移住先となったタイ、バンコクが日本人にとって特別であるのはなぜか？

等々。

特に仕事が海外生活を始める上で
大きな障害になっている人が多いので、
この点は解決法を提示していくつもり。

では、またメルマガでお会いしましょう。

伊田武蔵